

# 令和5年度 第1回宝達志水町文化財保護審議会 議事録

日 時：令和4年5月30日（火） 午後3時00分～午後4時30分  
場 所：宝達志水町埋蔵文化財センター 2階 研修室

## 出席者

委 員：村上委員、末森委員、山岸委員、秋田委員、出倉委員、金山委員  
事務局：宮本課長、竹森主事、麦居主事

## 次 第

- 1 開 会
- 2 委嘱状交付
- 3 会長及び副会長の互選
- 4 会長あいさつ
- 5 議 題
  - (1) 令和5年度文化財保護事業計画について
  - (2) 令和5年度能登文化財保護連絡協議会について
- 6 その他
  - (1) 事務連絡等
  - (2) 意見交換
- 7 閉会あいさつ（副会長）

## 議事録

（令和5年度文化財保護事業計画について）

出 倉：提案したいことがある。ドローンを飛ばして、町の文化財を記録として撮影ほしい。例えば、臼ヶ峰往来。上空から鳥瞰図のように見ると分かりやすくなるし、日本海を眺めたであろう大伴家持と同じ気分を味わうことができると思う。氷見側とは異なり、雑木等が生い茂り、きれいな風景を見ることが出来ない。地権者との関係で雑木等を切ることが難しいと聞いている。ドローンでの撮影は、これらの問題を克服し、また教材や観光にも活かせると思う。町の文化財をドローンで撮影・記録し、教育・観光等で活用することを提案したい。

秋 田：国民文化祭で末森城が中心に取り上げられる。末森合戦というと、日本史全体の大きな話（小牧・長久手の戦い）の中で説明されるが、我々町

民の先祖がこの合戦にどう対応していたのか、そこに触れられないまま、この地で合戦があったと説明されている。町民目線で見ただけの場合に、当時、我々の先祖が、この合戦に対し、どのように思っていたのか。

事務局：町の中では、合戦で被災して現在地に移ったという伝承は残っている。歴史学上、同時代の史料を用いて歴史を復元していくことになる。農民目線の話になると、どうしても後の時代に記録された伝承の中で語られたものに偏ることになる。これらを元に、史実としての、当時の農民の思いを考えるのは難しいと思う。ただ、伝承として残っていること自体は貴重なので、記録保存した上で、伝承の世界として紹介していくのはあってもよいと思う。

秋 田：歴史学からではなく、郷土という目線から過去の歴史を捉えるという視点が欠けているように思う。末森合戦が、我々の先祖から見てどんな事件だったのか。郷土の歴史という場合には、そこに住む者の目線というものを考えないと語れないのではないかと、という思いがある。

村 上：かほく市は桜井三郎左衛門が前田利家の道案内をしたと盛んに売り出している。沢川の田畑兵衛もそうだが、そうした伝承は新しいものになる。十村の喜多家についても同様であり、末森合戦の頃からの有力農民は残っていない。そのため史料も少なく、事務局も苦労していると思う。ただ、町民として、そうした疑問を持つのは当然なので、地域に住む者の目線も視野に含めていただければと思う。

山 岸：国民文化祭の共通テーマが「いざ！末森城ものがたり」ということだが、末森城の登山道に植物の名前を書いた標識があったと思う。現物と違っているが…。

事務局：植物の標識は、旧押水町時代に農林の事業で立てられたと聞いているが、特に更新などはしていない。

出 倉：行政として、不要なら撤去してもよいのでは。

事務局：（農林と）連携を図っていきたいと思う。

(意見交換)

出 倉：所司原の通称「ショシダン」と呼んでいるところの谷の底にある桜で、古老が「マルヤマの桜」と呼んでいた桜がある。幹周り 3m12 cmあり、千木先生によれば、これだけの大きいカスミザクラは余りないという。文化財に指定してはどうであろうか。

秋 田：ヤマザクラの一種であれば、山に行けばオオヤマザクラがあるが、それとは別ということか。

出 倉：ちゃんとした和名がある。

山 岸：カスミザクラというのは正式な名前か。

村 上：正式な名前で、北海道から東北にかけて、割と一般的である。保存するとなると、まずは周りの竹を切らなければならない。我々から見て、このカスミザクラは珍しいものに見えるが、全国的に見てどうか調査をする必要がある。もしかしたら、このあたりが南限かもしれない。北の方にはたくさんあるので。

出 倉：これだけ大きな桜があることは、在所の者は知っているが、すごいものだと訴えかけたいという思いもある。所司原の原風景の一つとして大事に守っていきたい財ではないかなと思う。また、プロの方のご指導受けながら、話を進めていこうと思いますので、よろしくお願いします。